

ロボットの運動(逆運動学)

ロボット概論 11

第12回(2019/12/9)

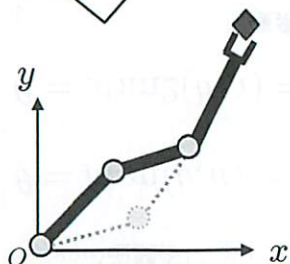
担当: 山崎

1

(復習)運動学

- 運動学(キネマティクス, kinematics)
 - ロボットアームのリンクの位置や速度などの関係を幾何学的に考える

どのような姿勢をとっている／とるべきか？



各関節の角度から、先端の位置、向きを求める
⇒ 順運動学

主な用途: 外力による姿勢変化を調べる
目標軌道との誤差を調べる

先端の位置、向きから、各関節の角度を求める
⇒ 逆運動学

主な用途: 目標の位置・軌道にロボットアームを動かす

3

はじめに

■ 前回の内容

- オイラー角
- ロール・ピッチ・ヨー角
- 逆運動学計算
- DHパラメータ
- 偏微分とヤコビ行列

■ 今回の内容

- 逆三角関数
- 逆運動学(幾何的に解く手法)
- 逆運動学(ヤコビ行列による手法)

➡ 目標位置までロボットアームを動かすには？

(準備)逆三角関数

- 逆運動学では、逆三角関数(アークサイン, アークコサイン, アークタンジェント)が使われる
- 三角関数(sin, cos, tan)の値から、角度を返す
- 値域に注意

値域

$$x = \sin \theta \iff \theta = \sin^{-1} x \quad \left(-\frac{\pi}{2} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}\right)$$

$$x = \cos \theta \iff \theta = \cos^{-1} x \quad (0 \leq \theta \leq \pi)$$

$$x = \tan \theta \iff \theta = \tan^{-1} x \quad \left(-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}\right)$$

- 計算例

$$\sin^{-1} \left(\frac{1}{2}\right) = \frac{\pi}{6}, \quad \cos^{-1} \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right) = \frac{\pi}{4}$$

※arcsin, asin という書き方もされる

4

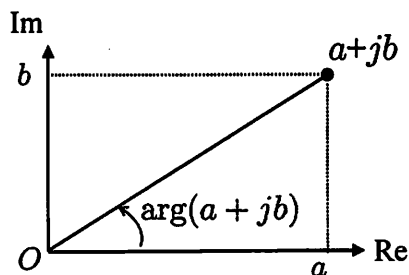
(準備) 逆三角関数

tanの逆関数については \tan^{-1} 以外に atan2 という関数もしばしば使われる

$$\theta = \text{atan}(b, a) = \tan^{-1} \left(\frac{b}{a} \right) \quad \left(-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2} \right) \quad \text{値域}$$

$$\theta = \text{atan2}(b, a) = \arg(a + jb) \quad \left(-\pi < \theta \leq \pi \right)$$

↑
複素平面上の偏角(argument)で角度を考える



計算例

$$\text{atan2}(2, 2) = \frac{\pi}{4}$$

$$\text{atan2}(3, 0) = \frac{\pi}{2}$$

5

2自由度ロボットアームの逆運動学計算

余弦定理より $\overline{OP}^2 = L_1^2 + L_2^2 - 2L_1L_2 \cos \alpha$ であるから

$$\cos \alpha = \frac{L_1^2 + L_2^2 - \overline{OP}^2}{2L_1L_2}$$

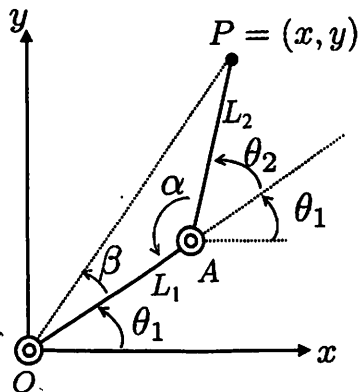
よって、逆三角関数を使って

$$\alpha = \cos^{-1} \left(\frac{L_1^2 + L_2^2 - \overline{OP}^2}{2L_1L_2} \right)$$

ここで $\overline{OP} = \sqrt{x^2 + y^2}$ より

$$\theta_2 = \pi - \alpha$$

$$= \pi - \cos^{-1} \left(\frac{L_1^2 + L_2^2 - (x^2 + y^2)}{2L_1L_2} \right)$$



2自由度ロボットアームの逆運動学計算

構造によっては、幾何的に解けることを確認しよう。

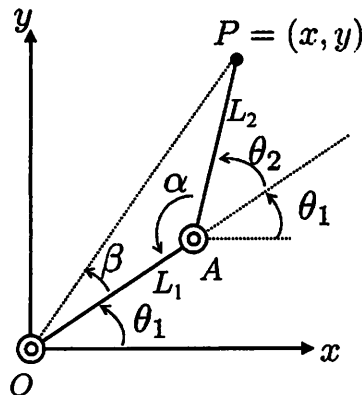
順運動学については次式で求まる
(θ_1, θ_2 から x, y が求まる)

$$\begin{cases} x = L_1 \cos \theta_1 + L_2 \cos(\theta_1 + \theta_2) \\ y = L_1 \sin \theta_1 + L_2 \sin(\theta_1 + \theta_2) \end{cases}$$

上式を出発点に逆運動学を解いていこう
(手先位置 x, y から θ_1, θ_2 を求めよう)

方針

1. $\triangle OAP$ を考える
2. 余弦定理から, $\cos \alpha, \cos \beta$ を求める
3. 逆三角関数で α, β を求める
4. α, β から θ_1, θ_2 を求める



自由度ロボットアームの逆運動学計算

また $L_2^2 = L_1^2 + \overline{OP}^2 - 2L_1\overline{OP} \cos \beta$ より $\cos \beta = \frac{L_1^2 + \overline{OP}^2 - L_2^2}{2L_1\overline{OP}}$

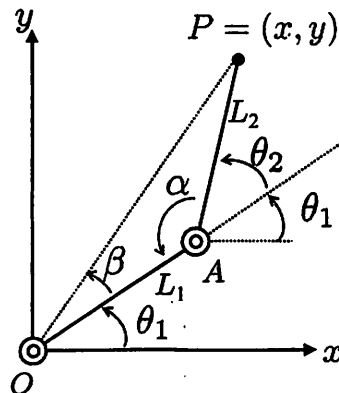
$$\text{よって } \beta = \cos^{-1} \left(\frac{L_1^2 + \overline{OP}^2 - L_2^2}{2L_1\overline{OP}} \right)$$

$$\theta_1 + \beta = \cos^{-1} \left(\frac{x}{\overline{OP}} \right) \quad \text{であるから,}$$

$$\theta_1 = \cos^{-1} \left(\frac{x}{\overline{OP}} \right) - \beta$$

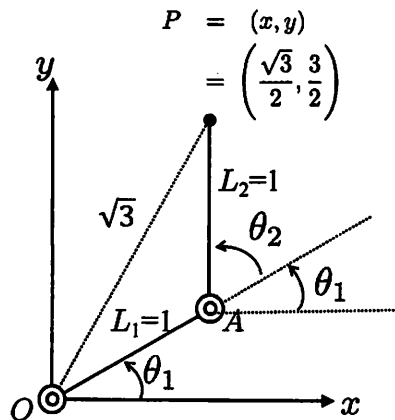
$$= \cos^{-1} \left(\frac{x}{\sqrt{x^2 + y^2}} \right)$$

$$- \cos^{-1} \left(\frac{L_1^2 + x^2 + y^2 - L_2^2}{2L_1\sqrt{x^2 + y^2}} \right)$$



数値例

$$L_1 = L_2 = 1, x = \frac{\sqrt{3}}{2}, y = \frac{3}{2} \text{ のとき, } \sqrt{x^2 + y^2} = \sqrt{\frac{3}{4} + \frac{9}{4}} = \sqrt{3}$$



前項までの結果から,

$$\theta_1 = \cos^{-1}\left(\frac{1}{2}\right) - \cos^{-1}\left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)$$

$$= \frac{\pi}{3} - \frac{\pi}{6} = \frac{\pi}{6}$$

$$\theta_2 = \pi - \cos^{-1}\left(-\frac{1}{2}\right)$$

$$= \pi - \frac{2}{3}\pi = \frac{\pi}{3}$$

複数解の存在

$$L_1 = L_2 = 1, x = \frac{\sqrt{3}}{2}, y = \frac{3}{2}$$

このとき,

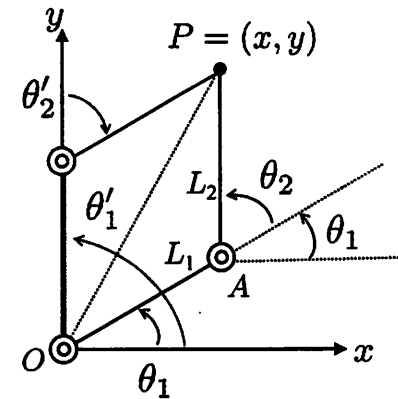
$$\theta_1 = \frac{\pi}{6}, \theta_2 = \frac{\pi}{3}$$

の他に

$$\theta'_1 = \frac{\pi}{2}, \theta'_2 = -\frac{\pi}{3}$$

も解である。

解に(0以上などの)条件をつけることで、絞り込める

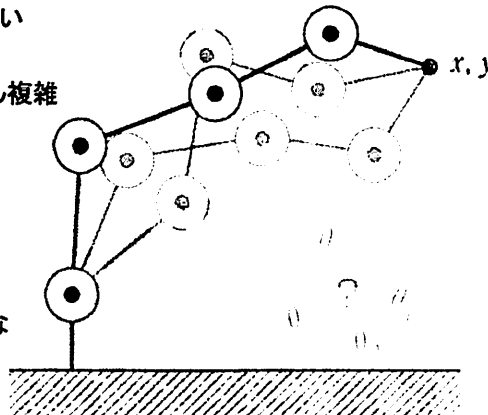


さらに複雑な場合は

- 順運動学計算
 - 自由度が増えても対応しやすい
- 逆運動学計算
 - 自由度が多い場合はどんどん複雑になる
 - 解が一意に決まらない



- ロボットの構造によらない方法はないか?



図出典: 木野・谷口, イラストで学ぶロボット工学

(復習)偏微分

- 多変数関数を, ある1変数に関して微分することを偏微分という
- 注目する変数以外は定数として, (従来の)微分の操作をすれば良い
- 注目する変数方向の変化率を表している
- 例として, 以下のような x と y の2つの変数から値が決まる関数 f を考える

$$f(x, y) = x^2 + xy + y^3$$
 - 関数 f の x による偏微分
 - 関数 f の y による偏微分

$$\frac{\partial f}{\partial x} = 2x + y + 0$$

x^2 の微分 xy の微分 y^3 の微分(=0)

y を定数として x を微分

$$\frac{\partial f}{\partial y} = 0 + x + 3y^2$$

x を定数として y を微分

∂ はラウンドと読む

(復習) ヤコビ行列 (Jacobian matrix)

順運動学の計算により、手先位置 x, y と関節角度 θ_1, θ_2 について

$$\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} f_1(\theta_1, \theta_2) \\ f_2(\theta_1, \theta_2) \end{bmatrix} \quad \begin{array}{l} \text{例) } f_1(\theta_1, \theta_2) = L_1 \cos \theta_1 + L_2 \cos(\theta_1 + \theta_2) \\ f_2(\theta_1, \theta_2) = L_1 \sin \theta_1 + L_2 \sin(\theta_1 + \theta_2) \end{array}$$

の関係が得られているとする。両辺を微分すると

$$\begin{bmatrix} \frac{dx}{dt} \\ \frac{dy}{dt} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \frac{\partial f_1}{\partial \theta_1} \frac{d\theta_1}{dt} + \frac{\partial f_1}{\partial \theta_2} \frac{d\theta_2}{dt} \\ \frac{\partial f_2}{\partial \theta_1} \frac{d\theta_1}{dt} + \frac{\partial f_2}{\partial \theta_2} \frac{d\theta_2}{dt} \end{bmatrix} \quad \text{全微分といわれる}$$

行列として整理すると

$$\begin{bmatrix} \frac{dx}{dt} \\ \frac{dy}{dt} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \frac{\partial f_1}{\partial \theta_1} & \frac{\partial f_1}{\partial \theta_2} \\ \frac{\partial f_2}{\partial \theta_1} & \frac{\partial f_2}{\partial \theta_2} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \frac{d\theta_1}{dt} \\ \frac{d\theta_2}{dt} \end{bmatrix}$$

この行列をヤコビ行列という

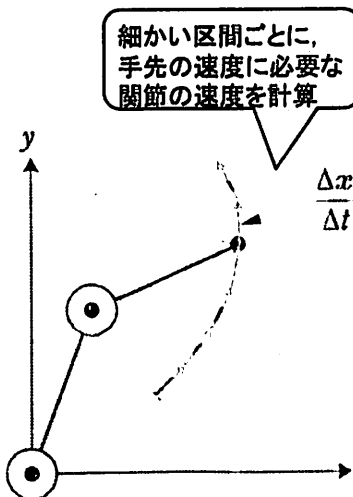
13

分解速度法による軌道制御

- こう動かしたいという手先位置の目標軌道 (各時刻での位置) が与えられている
- これを微分すれば、各時刻での軌道上の目標速度が分かる

$$\dot{q} = J^{-1} \dot{r}$$

- 上式で、目標速度に必要な各関節の速度を求め、関節を動かす
- ごく短い時間間隔 Δt ごとに繰り返し計算し、動かしていくことで目標軌道を達成する。



図出典: 木野・谷口, イラストで学ぶロボット工学

- 逆運動学計算を直接行わずに、手先の軌道制御を実現できる!

15

ヤコビ行列 (Jacobian matrix)

ここで、手先位置ベクトル $r = \begin{bmatrix} x & y \end{bmatrix}^T$ ヤコビ行列 $J = \begin{bmatrix} \frac{\partial f_1}{\partial \theta_1} & \frac{\partial f_1}{\partial \theta_2} \\ \frac{\partial f_2}{\partial \theta_1} & \frac{\partial f_2}{\partial \theta_2} \end{bmatrix}$
 関節角度ベクトル $q = \begin{bmatrix} \theta_1 & \theta_2 \end{bmatrix}^T$

とくと、
$$\begin{bmatrix} \frac{dx}{dt} \\ \frac{dy}{dt} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \frac{\partial f_1}{\partial \theta_1} & \frac{\partial f_1}{\partial \theta_2} \\ \frac{\partial f_2}{\partial \theta_1} & \frac{\partial f_2}{\partial \theta_2} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \frac{d\theta_1}{dt} \\ \frac{d\theta_2}{dt} \end{bmatrix}$$

は

$$\dot{r} = J \dot{q}$$

各関節の速度 (\dot{q}) に対し、手先の速度 (\dot{r}) がどう変化するかを表している

さらに、 J に逆行列があれば、

$$\dot{q} = J^{-1} \dot{r}$$

手先の速度 (\dot{r}) に対し、各関節の速度 (\dot{q}) がどう変わるかを表している

となる

14

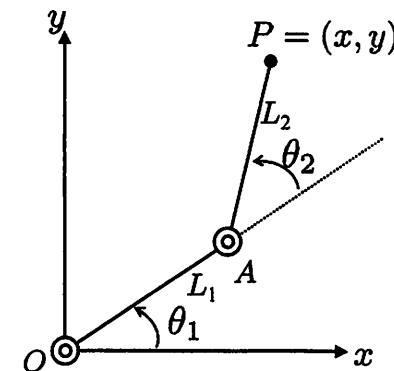
計算例

- 順運動学計算により

$$\begin{cases} x = L_1 \cos \theta_1 + L_2 \cos(\theta_1 + \theta_2) \\ y = L_1 \sin \theta_1 + L_2 \sin(\theta_1 + \theta_2) \end{cases}$$

- ヤコビ行列 J は

$$J = \begin{bmatrix} \frac{\partial x}{\partial \theta_1} & \frac{\partial x}{\partial \theta_2} \\ \frac{\partial y}{\partial \theta_1} & \frac{\partial y}{\partial \theta_2} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -L_1 \sin \theta_1 - L_2 \sin(\theta_1 + \theta_2) & -L_2 \sin(\theta_1 + \theta_2) \\ L_1 \cos \theta_1 + L_2 \cos(\theta_1 + \theta_2) & L_2 \cos(\theta_1 + \theta_2) \end{bmatrix}$$



16

計算例

- 行列式を計算すると

$$\begin{aligned}
 |J| &= (-L_1 L_2 S_1 + C_{12} - L_2^2 S_{12} C_{12}) - (-L_1 L_2 S_{12} C_1 - L_2^2 C_{12} S_{12}) \\
 &= L_1 L_2 (S_{12} C_1 - S_1 C_{12}) + L_2^2 (C_{12} S_{12} - S_{12} C_{12}) \\
 &= L_1 L_2 \sin(\theta_1 + \theta_2 - \theta_1) \\
 &= L_1 L_2 \sin \theta_2
 \end{aligned}$$

ただし, $\sin(\theta_1 + \theta_2) = S_{12}$, $\cos(\theta_1 + \theta_2) = C_{12}$ と略記

復習

$$A = \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \quad \text{のとき, 行列式 } |A| = ad - bc$$

$$\text{逆行列 } A^{-1} = \frac{1}{|A|} \begin{bmatrix} d & -b \\ -c & a \end{bmatrix}$$

17

計算例

$L_1 = L_2 = 1$, $\theta_1 = \frac{\pi}{6}$, $\theta_2 = \frac{\pi}{6}$ のときのヤコビ行列とその逆行列は

$$J = \begin{bmatrix} -\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2} & -\frac{\sqrt{3}}{2} \\ \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2} & \frac{1}{2} \end{bmatrix} \quad \begin{aligned} a &= -\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2} & b &= -\frac{\sqrt{3}}{2} \\ c &= \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2} & d &= \frac{1}{2} \end{aligned}$$

$$|J| = \left(-\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2} \right) \frac{1}{2} - \left(-\frac{\sqrt{3}}{2} \right) \left(\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2} \right) = \frac{1}{2} \quad \left(|L_1| \cdot |L_2| \cdot \sin \theta_2 = \frac{1}{2} \right)$$

$$J^{-1} = \frac{1}{\frac{1}{2}} \begin{bmatrix} \frac{1}{2} & \frac{\sqrt{3}}{2} \\ -\frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{1}{2} & -\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & \sqrt{3} \\ -\sqrt{3} - 1 & -1 - \sqrt{3} \end{bmatrix}$$

18

計算例

$L_1 = L_2 = 1$, $\theta_1 = \frac{\pi}{6}$, $\theta_2 = \frac{\pi}{6}$ とする

先端を x 方向に -0.1 m/s, y 方向に 0.1 m/s で動かしたいときに必要な関節の角速度 $\dot{\theta}_1$, $\dot{\theta}_2$ [rad/s] を求めよ。

$$\begin{bmatrix} \dot{\theta}_1 \\ \dot{\theta}_2 \end{bmatrix} = J^{-1} \begin{bmatrix} -0.1 \\ 0.1 \end{bmatrix}$$

$$\begin{aligned}
 &= \begin{bmatrix} 1 & \sqrt{3} \\ -\sqrt{3}-1 & -1-\sqrt{3} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} -0.1 \\ 0.1 \end{bmatrix} \\
 &= \begin{bmatrix} -0.1 + 0.1\sqrt{3} \\ 0.1\sqrt{3} + 0.1 - 0.1 - 0.1\sqrt{3} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -0.1 + 0.1\sqrt{3} \\ 0.1\sqrt{3} \end{bmatrix}
 \end{aligned}$$

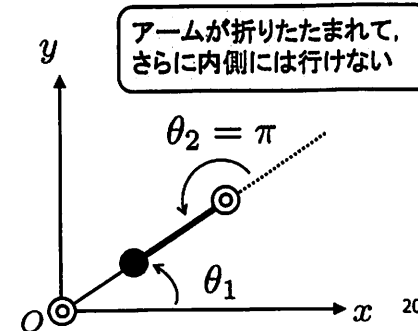
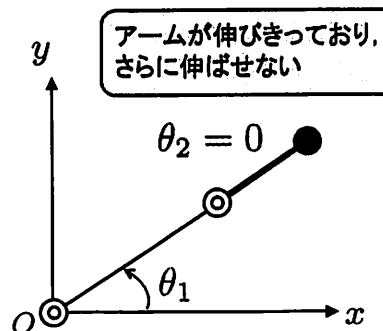
で各関節を動かせば良い。

$$\begin{bmatrix} -0.1(1-\sqrt{3}) \\ 0 \end{bmatrix}$$

19

特異姿勢

- $\dot{q} = J^{-1} \dot{r}$ だが, $|J|=0$ のとき, 逆行列が存在しない。これは?
- このとき, 特定の方向に動けない状態(特異姿勢)にある
- $|J|$ が 0 に近いと, \dot{q} が非常に大きくなる \Rightarrow うれしくない
- 特異姿勢(とその周辺)を避けるように膝を曲げるロボット



20